

花きの栽培技術

# シャクヤク栽培のポイント



シャクヤクはキンポウゲ科の宿根草で、原産地は中国北部からシベリアです。花の色は桃・白・赤色など鮮やかな色が多く、気品があり豪華な花です。和歌山県では、ハウス栽培は4月に、露地栽培では5月上旬に出荷され、母の日の人気品目にもなっています。

## 1 植え付け

土壌が深く、排水の良いほ場に植えます。一度定植すると何年も植え替えることがないので、良質のたい肥を施用し、しっかりと土作りを行っておきます。11月に、2条植えの場合は畝幅140cm、株間70cm、1条植えの場合は畝幅120cm、株間50cm程度に植えます。

## 2 栽培管理（露地栽培）

定植後2年間は蕾を除去して、株を育成し、3年目から切り花を行うことができます。3月に新芽が出てくるので1株当たりの芽の数を20本程度に整理します。茎が伸長した後に、側芽

を除去するとともに、株の横に紐を張って茎葉が倒れないようにします。

## 3 切り花・切花後の管理

5月に切り花ができますが、株が弱らないように、充実した茎葉を1株当たり数本残しておきます。切り花後は土の乾燥防止と雑草抑制のため、畝の上に敷きわらを行います。雨が長期間降らない場合は灌水を行います。土壌が乾燥しすぎると次の年の新芽が細くなるので注意します。

## 4 肥料・病害虫防除

2月に新芽が出る前に即効性の肥料を施用し、茎葉の生長を促進します。切り花後は5月下旬と6月下旬に有機肥料を施用し、株の充実を図ります。病気について、切り花までは灰色カビ病、切り花後は斑葉病やウドンコ病に注意します。害虫ではヨトウムシやコウモリガは発生することがあるので、早めの防除に努めます。

今年も丁寧な栽培管理に努めて、高品質な切り花を行い、和歌山のシャクヤクが市場や消費者の皆様喜んでいただけるよう頑張りたいものです。

(JAグループ和歌山農業振興センター)